

富山城年表

時代	年号	西暦	富山城の出来事	城主
戦国・安土桃山（中世富山城）	天文 12 頃	1543	神保長職が富山城を築城	神保長職
	永禄 3	1560	長尾景虎（後の上杉謙信）が富山城を攻める	
	永禄 12	1569	富山城は上杉謙信の支城となる	上杉
	元亀 3	1572	加賀一向一揆勢が越中に侵攻、富山城を占拠	一向一揆
	天正元	1573	上杉謙信が富山城周辺から一向一揆勢を駆逐。安城外町を放火。	
	天正 8 頃	1580	織田信長の配下となった神保長住が富山城に帰城	神保長住
	天正 10	1582	佐々成政の居城となる	佐々成政
	天正 13	1585	佐々成政が豊臣秀吉に降参、富山城は破却される	
	天正 15	1587	佐々成政は肥後に転封。前田利家 ^{まえだとしえ} に新川郡が預けられる	豊臣
	慶長 2	1597	加賀藩二代藩主前田利長が富山城に移る	前田利長
	慶長 3	1598	加賀藩初代藩主前田利家が隠居、利長が家督を継ぎ金沢城に移る	
江戸（近世富山城）	慶長 10	1605	前田利長が隠居し、再び富山城に入る。富山城・城下町の整備を行う	前田利次
	慶長 14	1609	大火で富山城焼失。利長は高岡に移る	
	元和元	1615	一国一城令により富山城は廃城となる	
	寛永 16	1639	加賀藩から 10 万石を分与され、富山藩成立（幕府から百塚での新城築城が許可され、築城まで富山城を仮の居城とする）	前田利次
	万治 3	1660	百塚の新城築城が困難となり富山城を居城に定める	
	寛文元	1661	幕府より富山城修理の許可が下り城・城下町の整備を行う	
	延宝 3	1675	城下町から出火し、三ノ丸に延焼	前田正甫
	延宝 5	1677	幕府から富山城普請の許可が下りる	前田利興
	正徳 4	1714	本丸御殿が焼失	前田利久
	天明 3	1783	常願寺川が氾濫、富山町を洪水が襲う	前田利謙
	寛政元	1789	神通川が氾濫し三ノ丸が浸水	前田利幹
	天保 2	1831	城下町から出火し城内に延焼。三ノ丸の一部を除き焼失	
	天保 4	1833	本丸御殿が再建される	
	嘉永 2	1849	前田利保の隠居所として千歳御殿が建築される	前田利友
	安政 2	1855	城下町から出火し城内に延焼。千歳御殿などが焼失	前田利声
	安政 5	1858	飛越地震が発生。石垣が崩れ地割れや泥水の噴出が起こる	
	文久 3	1863	城下町から出火し、城内に延焼	前田利同
明治	明治 4	1871	廃藩置県により富山県が設置	
	明治 6	1873	廃城令により富山城は廃城となる	

※現在の富山城（富山市郷土博物館）は、昭和29年に戦災復興事業の完了を機に開催された、富山産業大博覧会の記念建築物として建設されました。

詳しい資料は富山市埋蔵文化財センターのホームページ
「富山城研究」コーナーをご覧ください。
<http://www.city.toyama.toyama.jp/etc/maibun/center.htm>

富山城石垣マップ

佐々成政や富山藩主前田家の居城であった富山城。この城跡が富山城址公園として整備され市民の憩いの場となっています。公園内に残る石垣から当時の威容を見ることができます。



2018. 12. 7 発行 富山市観光協会

資料提供 富山市埋蔵文化財センター・富山市郷土博物館

富山城の石垣



鉄門石垣の西石垣西面に四角い掘り込みのある石材があります。これは、本丸の正門（鉄門）の土台となる木材を受ける石です。現在は上半分のみが見えます。本来鉄門があった場所から 10m 程離れた場所にあり、鉄門を支えるためのものでしたが、石垣の積み直しにより移動しました。



鉄門石垣の角石に合計 3 個の星型刻印があります。星形は陰陽道において魔除けの記号とされています。本丸の南西の方角に配置されており、悪霊が侵入するのを防ぐ目的があったとみられています。



石垣に刻印が残っているもの。上の安山岩には△の刻印。下の花崗岩には×印の刻印が見られます。

三の丸は、南辺中央に「大手門」があり、門の両側が石垣でした。発掘で 4 段以上の石垣が見つかりました。石は花崗岩と安山岩で割らない玉石が多く使われていました。この発見で大手門の正確な位置が特定できました。

※

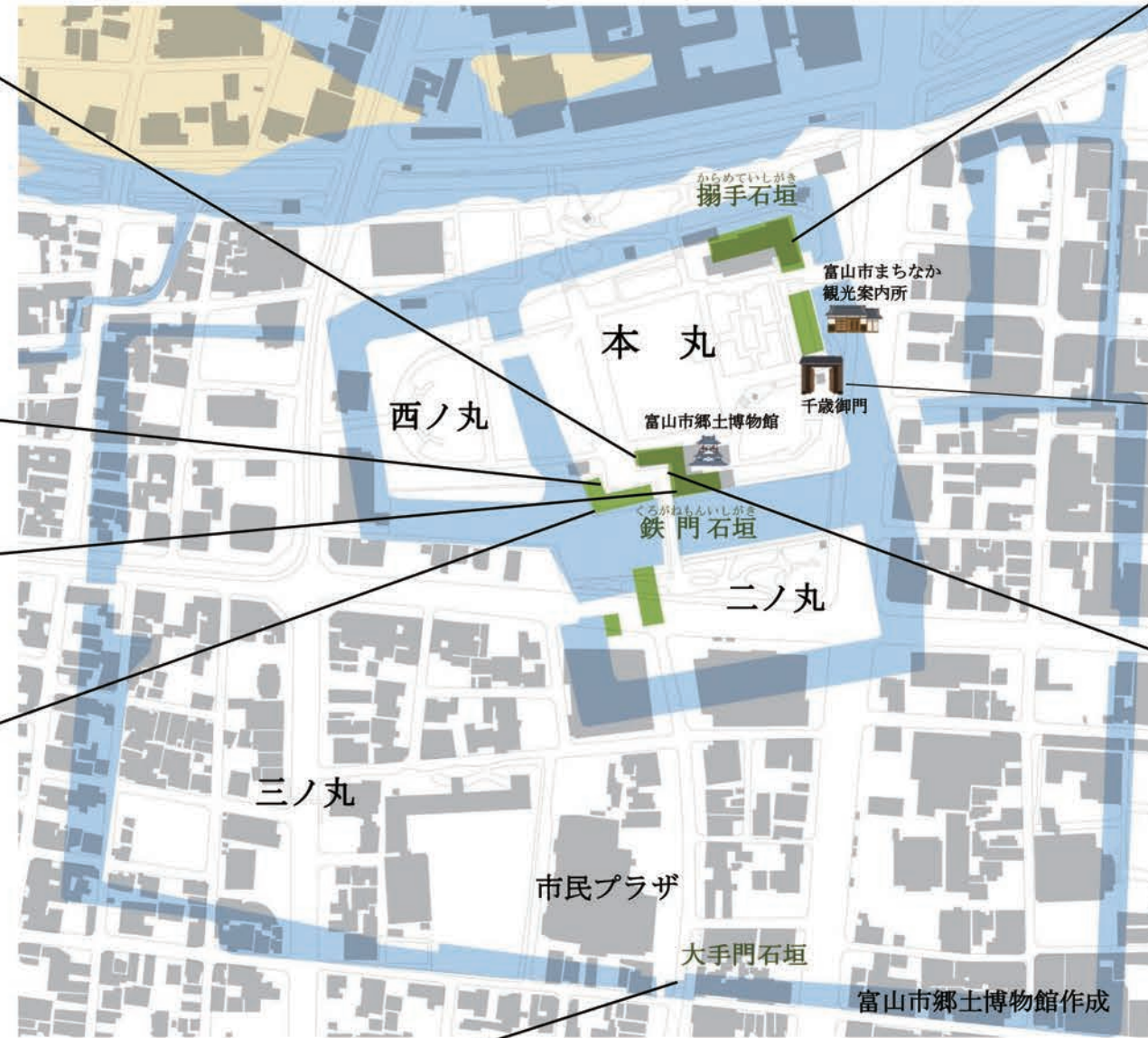


路面電車を通すための発掘調査時の写真



大手門の位置を示すプレート

※印写真 富山市教育委員会蔵



平成 18 年度に解体修理したところ裏面には石を割るときに彫られた「矢穴」が 19 個残っていました。矢穴は直線的に配置するのが普通ですがこの鏡石の矢穴はカーブして並んでいます。カーブした矢穴から薄く板状の石に割り取ることは難しく、高度な技術がうかがえます。

※



高さ	3.65m	厚さ	上端 0.50m
幅	2.05m		中央 0.295m
面積	5.87 m ²		下端 0.70m
重さ	約 6 t		



上の二つの鏡石は一方の天地を逆にするともう一方と重なり、同じ石から割り取られたことがわかります。



※



本丸北東部の搦手石垣、現在佐藤記念美術館が建つ石垣の東面です。赤線の上と下で違いがあることがわかります。下側は比較的形の整った小型の石（花崗岩）が横の列を揃えて積まれています。江戸時代の寛文期（1661 年頃）の特徴です。上側は戦後に積み直したため異なる積み方となっています。

ちとせ ごもん
千歳御門

富山城で唯一現存する千歳御殿の創建当初の建造物です。



江戸時代後期の御殿正門の様式や意匠及び技法を知る上で大変価値が高く、市指定文化財となっています。

鏡石とは

城主の権威を示すためのものと考えられています。富山城の鏡石は、加賀の前田利長が慶長 10（1605）年頃に築き、富山藩初代藩主 前田利次が寛文元年（1661 年）頃に現在の形に積み直したと考えられています。



鉄門石垣の通路面は「布積み」という石の横の列を揃えた積み方です。寛文期の石積みで富山城では最も古い積み方が確認できる部分です。